

# 「科学の軍事利用と科学者の抵抗」

## － 軍事研究拒否だけでいいのか？ －

豊島耕一（元佐賀大学・理工・物理）

イントロダクション：学術会議の報告案について

過去の2つの声明を「継承」。毎日：「・・・ただ、軍事研究自体の是非や防衛省の制度への応募の可否は明記せず、幅広く解釈できる余地も残った。」<sup>1</sup>

### 1. 防衛省からの大学への資金枠の拡大.

「軍事研究助成 18 倍 概算要求 6 億→110 億円 防衛省、産学応募増狙う」（東京新聞 2016 年 9 月 1 日）

「基礎研究」ならいいのか？ 「デュアルユース」という言葉の狙いは？

葉隠，聞書第一：「又、学問者は才智・弁口にて本体の臆病・欲心などを仕隠すもの也。人の見誤る所也。」<sup>2</sup>

### 2. アメリカの理工系トップ2大学の例

Leslie の “The Cold War and American Science”<sup>3</sup>は MIT とスタンフォードの軍学共同の歴史を詳述

### 3. アイゼンハワーの2つの警告

大統領離任演説<sup>4</sup>：軍産複合体の支配と、科学技術エリートの支配

### 4. 戦後の日本の学界の姿勢

戦後の学術会議の声明(1949年，1950年)，物理学会の「決議三」（1967年）

### 5. 科学者，科学界による核兵器批判，抵抗（70年代まで）

戦中：マイトナー，ロートブラット<sup>5</sup>

戦後：ラッセル-アインシュタイン宣言，パグウオッシュ，科学者京都会議

### 6. 科学者，専門家による新しい抵抗の形態

判事，検事らによる基地封鎖（ムートランゲン）<sup>6</sup>，ファスレーン 365 での Academic Blockade<sup>7</sup>

### 7. 非暴力直接行動（NVDA Non-violent Direct Action,）

“ファスレーン 365”<sup>8</sup>日本チームの経験，「行為によるプロパガンダ」と「道徳的柔術」<sup>9</sup>

### 8. アメリカの道をたどらないためにはどうするか

## 8-1 「客観的」条件

「貧困化」への抵抗, 「経常費」の維持, 個人の良心を発動させるための規範・制度, 抵抗組織・ネットワーク

## 8-2 思想的条件

組織の意志と個人の良心, 「責任ある組織上の不服従」<sup>10</sup>, 「基礎研究なら問題ない」のか, 「公開ならいい」のか → 軍組織に「人間関係資本」の蓄積をさせてよいか? 学術会議会長私見項目2への批判

「個別的自衛権」の公認化の傾向への批判. 自衛戦争, 自衛隊肯定論と関わらざるを得ない. つまり, 武力によらない国家防衛の問題

## 9 さしあたって

学術会議4月総会での「科学界における九条」の廃止阻止, 発展. 会員への働きかけ, 署名, 会議場前での行動.

## 10 軍事研究禁止のグローバル化

軍事転用される技術を予測し, 事前に禁止する国際機構 (R.E.Spier ほか, *Science and Technology Ethics*, 2002年, p.211-212.

「守る」だけでなく「広げる」姿勢こそ重要. 九条も同じ.

おわりに

「ゴジラ」第一作での芹沢博士の選択.

戦争・兵器のための研究は「知的暴力」と呼ぶべきではないのか? (cf. 言葉の暴力, 数の暴力, 構造的暴力, 文化的暴力, . . .)

筆者ブログ: 「ペガサス・ブログ」 <http://pegasus1.blog.so-net.ne.jp>  
筆者ツイッター: <https://twitter.com/yamamoto2007>

<sup>1</sup> 毎日新聞 2017年3月7日.

<sup>2</sup> 対訳 葉隠, p.72-73, 講談社インターナショナル, 2005年

<sup>3</sup> Stuart W. Leslie, "The Cold War and American Science: The Military-Industrial-Academic Complex at MIT and Stanford", Columbia University Press (1993, 1994)

<sup>4</sup> 対訳を次に置いています: <http://ad9.org/pegasus/Education/docs/EisenhowerAddressJE.pdf>

<sup>5</sup> ジョナサン・シェル「核のボタンに手をかけた男たち」(大月書店, 1988年)参照.

<sup>6</sup> Ulf Panzere, *Peace Magazine* Aug-Sep 1987. <http://www.peacemagazine.org/archive/v03n4p19.htm>

<sup>7</sup> Stellan Vinthagen 他 "Tackling Trident", Irene Publishing, 2012年.

<sup>8</sup> Angie Zelter 編 "*Faslane 365 - a year of anti-nuclear blockades*", Luath Press Ltd, 2008年.

<sup>9</sup> マイケル・ランドル「市民的抵抗」, 新教出版, 2003年, 123~124ページ.

<sup>10</sup> C.E. Harris, Jr.他「科学技術者の倫理」, 丸善, 2008年, 8.8節.